



produced by MEDIPLAT

2024年3月

衛生講話資料

女性の健康課題

企業における取組の要点

株式会社Mediplatの許可無く
対外的に参照・配布することを禁じます

Copyright(C) ALL RIGHTS RESERVED, Mediplat, Inc. CONFIDENTIAL

1. 「女性の健康」とは？

1. なぜ女性の健康？
2. 男女の差とは

2. 「女性の健康」各論

1. 月経・更年期
2. 不妊治療
3. 女性特有のがん

3. 目指したい方向性

なぜ「女性の健康」？

理由① 労働者属性の変化

- ・ 雇用者に占める女性割合は**37.9%**(H2)→**45.8%**(R4)に上昇
- ・ H31→R4では女性の**正規職のみが増加**（男性・女性非正規は減少）

理由② 女性の社会進出

- ・ 女性の社会進出が進んだ結果、女性の**健康課題の認知**が広がった
- ・ 働き方改革を通じて、**ワークライフバランス**や**両立支援**に注目
→ 「体調悪くても**頑張る**」から「体調悪いなら**ケアをする**」に変化

理由③ 健康経営の推進

- ・ 健康経営の評価項目として年々増えている分野
- ・ 企業の関心も「**女性特有の健康問題対策**」が**56%**で最多
- ・ 定期健康診断に問診項目追加など話題に

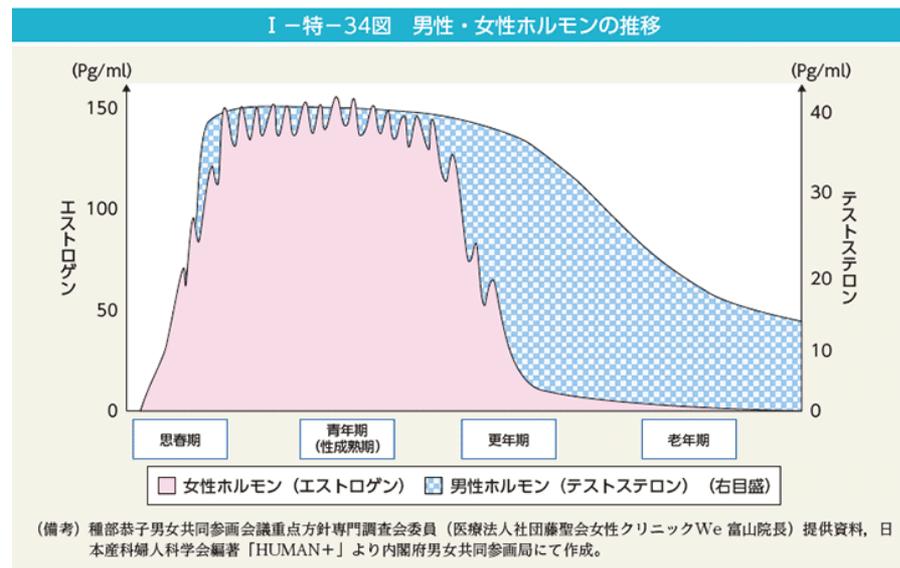
男女の「差」とは

女性		健康課題	男性	
月経不順 月経困難症 月経前症候群 貧血	子宮頸がん	20～30代	-	喫煙・肥満 など 生活習慣
	不妊症 乳がん	30～40代	-	
	更年期障害 子宮体がん	40～50代	前立腺肥大・がん 更年期障害	

男性に比べ若い頃から、
ホルモンによる症状に悩まされやすい
&
周期ごとの変動がある



「女性特有の健康課題」
に着目する必要性



課題① 月経・更年期

特徴① 女性ホルモンの影響を受ける

月経はホルモンの周期、更年期はホルモンの急減が様々な症状を起こす
→自分の意思でコントロールするのが難しい

特徴② 「不調」と「病気」の線引きが難しい



月経・更年期ともに、「**病気**」の基準が日常・社会生活への影響
(月経困難症：月経中の症状が日常・社会生活に影響するほど重いもの)
→周囲からもその影響が見えにくい

特徴③ 婦人科で対処可能

ホルモン変動自体を抑える低用量ピル・黄体ホルモン療法や
症状に対する漢方や様々な薬を使うことが可能

課題① 月経・更年期

月経・更年期の問題は「病気がある」ことより
「社員のパフォーマンスに影響する」こと

■ 月経によるパフォーマンス低下

月経・更年期の症状があると
仕事のパフォーマンスが
「半分以下になる」と回答した人が

月経：**45%** 更年期：**46%**

日本医療政策機構, 「働く女性の健康増進に関する調査2018」より引用

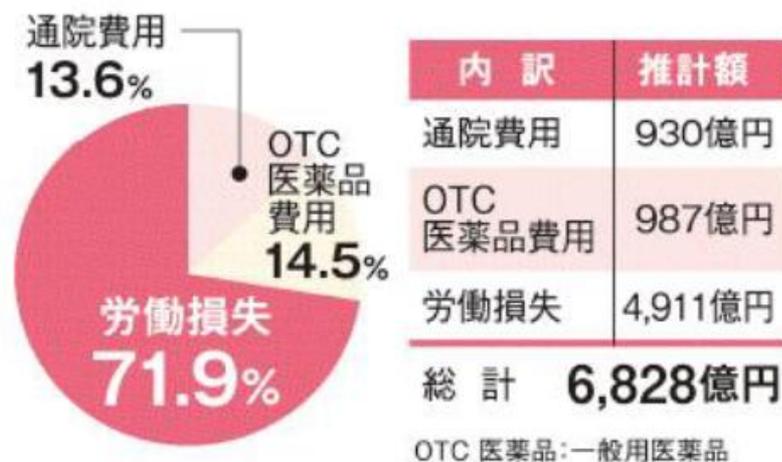
月経・更年期の症状は
社員のパフォーマンスを通じて
会社の労働損失につながる

↓
会社が女性の健康に取り組む理由

■ 月経の経済的影響

医療費より**労働損失**が大きい

■ 月経随伴症状による1年間の社会経済的負担



Tanaka E, Momoeda M, Osuga Y et al. J Med Econ 2013; 16(11): 1255-1266に基づき作成。

経済産業省, 「健康経営における女性の健康の取り組みについて」より抜粋

不妊治療の負担は女性に集中

通院と仕事の両立が難しく、職場に話しづらい

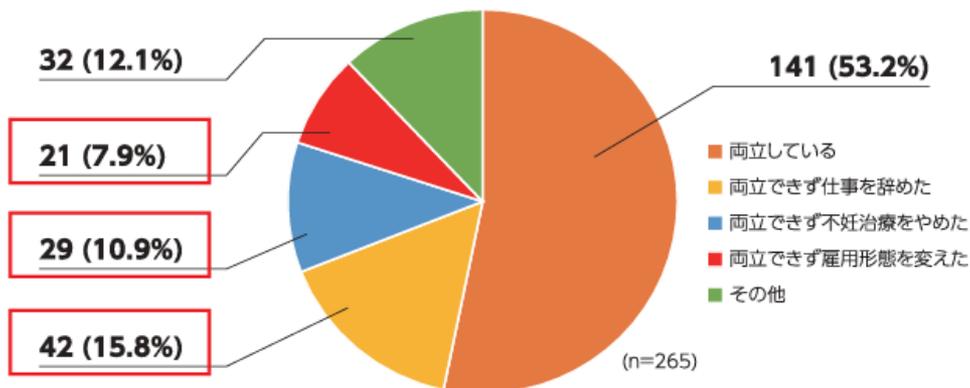
■ 治療負担が重い

生殖補助医療（卵子を体外に出す治療）
では1周期の**通院が5～12日**
&通院は**数日前に決まる**

■ 職場に話しにくい

不妊治療を職場に
「一切伝えていない」 **58%**
伝えない理由は
「知られたくない」 **45%**

図3 仕事と不妊治療の両立状況



(出典:厚生労働省「平成29年度「不妊治療と仕事の両立に係る諸問題についての総合的調査」)

治療が**長期**になることも多く
「休暇制度」も大事だが
**不妊治療と仕事の両立に
柔軟な働き方**が求められている

厚生労働省、「不妊治療と仕事との両立サポートハンドブック」より抜粋

課題③ 女性のがん

就労世代のがんは女性に多い

乳がん・子宮頸がんは若年で罹患し、死亡数も多い

■ 若年からがん検診が存在

・ 乳がん

40歳からマンモグラフィ

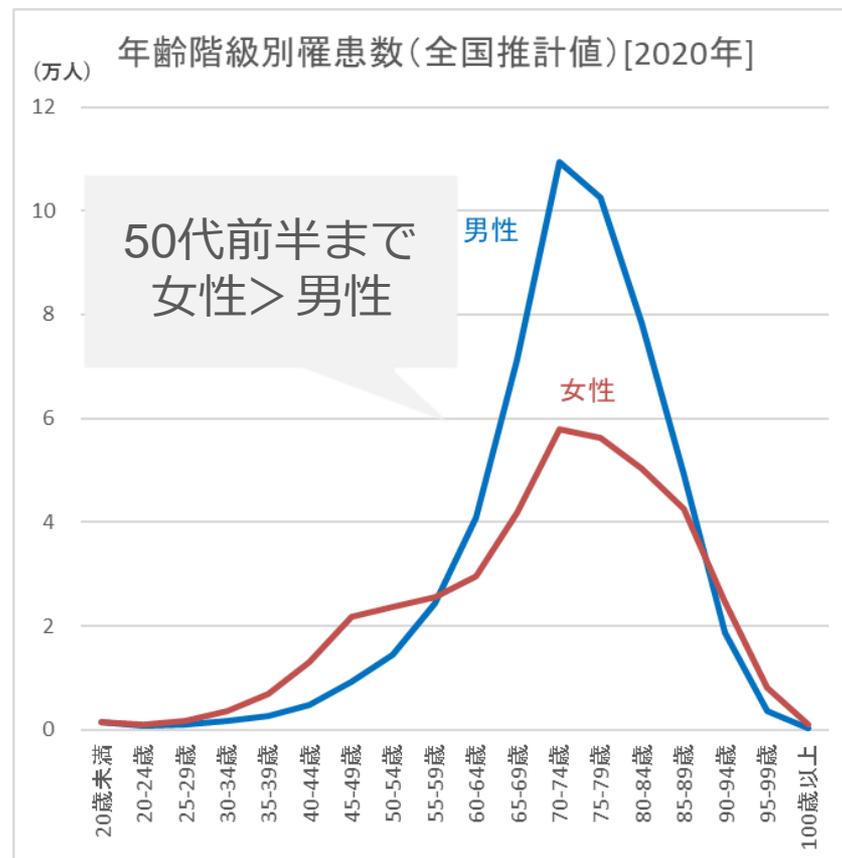
・ 子宮頸がん

20歳から子宮頸部細胞診
or 30歳からHPV検査

■ 就労女性のがん検診受診率は低い

- ・ 乳がん**47.4%**/子宮頸がん**43.6%**
(2022年)
- ・ 精密検査受診率も低迷

がん対策は女性が鍵



国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(全国がん登録)より作成

取り組みの要点

■ まずは「知る」ことから

生理・更年期に伴うパフォーマンスの低下を防ぐのは
女性の健康に関する「ヘルスリテラシー」
→自分も周囲も「**知識を持つ**」ことが大事

日本医療政策機構, 「働く女性の健康増進に関する調査2018」

■ 「症状の対処」より「働きやすい環境」を

多くの当事者が望んでいるのは「仕事と治療や体調を**両立しやすい環境**」
→女性の健康への施策も、「女性特有の病気や体質」だけでなく、
「**誰もが働きやすい、両立しやすい環境**」が重要

経済産業省, 「健康経営の更なる発展に向けて」

■ 「若い健康な男性」向きの会社・制度になっていないか確認を

「**様々な両立**」を前提にしない、「**いつでも働ける企業戦士**」中心の
考え方や制度では、現代の多様な背景のある労働者は働きにくい
→「多様な労働者が働ける」ことこそが「**DE&I**」の本質にもなる

どちらの発言が望ましいでしょうか？

(上司が、月に1回体調不良の女性部下に対して声がけをする場合)

①



体調悪そうですね。
今日**生理**でしんどかったら、帰っていいですよ。

②



体調悪そうですね。**無理せず**帰っても大丈夫ですよ。

「**生理でない**と帰れない」わけではない（体調不良なら男性でも帰るべき）
→他人の**健康・身体的特徴に不必要に言及**することは望ましくない

「**女性だから～**」「**生理だから～**」の発言は
ポジティブな意味であってもハラスメントになりうる